



トップスニュース

Vol.92

2016年11月25日

加盟
団体



サンフレッチェ広島



JTサンダース



ワクナガレオリック



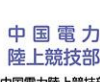
広島メイプルレッズ



広島ガス
バドミントン部



NTT西日本広島
ソフトテニスクラブ



中国電力
陸上競技部

中国電力陸上競技部



コカ・コーラウエスト
レッドスパークス



広島東洋カープ

トップス広島 事務局

〒733-0036

広島市西区観音新町4-10-2

ターミナルビル1F

TEL:082-233-3233

FAX:082-233-3251

URL:www.tops-h.net/

このQRコードから
公式Webサイトへ
アクセスできます。



広島東洋カープ

カープ 2016 年総括

4月12日(火)に緒方監督就任後初めて首位に立ち、その後は1~4位を行ったり来たりしていた。6月5日(日)に再び首位に立つと、そこからは他を寄せ付けられない圧倒的な強さで首位を独走。苦手の交流戦でも11勝6敗1分で7年ぶりに勝ち越し、6月14日(火)の西武戦から球団記録タイの11連勝。この中でもプロ4年目の鈴木誠也が2試合連続サヨナラ本塁打を含む3試合連続の決勝本塁打を放つ「神ってる」活躍を見せた。

後半戦も勢いが衰えることなく首位をキープし続け、8月24日(水)の巨人戦でマジック20を点灯させると、順調にマジックを減らしていき、9月10日(土)の巨人戦で25年ぶりとなる悲願のリーグ優勝を達成した。試合後、黒田と新井が涙を流し抱き合う姿が印象深かった。その後緒方監督が7回、黒田と新井は5回ずつ宙を舞った。

日本シリーズは本拠地のマツダスタジアムでジョンソン、野村の好投やエルドレッドの連続ホームランなどで幸先よく2勝したが、札幌ドームで敗戦。そのまま4連敗を喫し、黒田の花道を飾ることができなかった。

タイトルは、ジョンソンが沢村賞、野村が最多勝・最高勝率、菊池が最多安打を初めて受賞、ゴールデングラブ賞は石原、菊池、丸、鈴木が受賞した。



優勝決定後の翌日、優勝セレモニーでスタジアム内を回る緒方カープ



命の授業～トップアスリートから学ぶスポーツ教室開催

10月30日(日)に広島駅と広島駅新幹線口周辺地区(エキキタ)を結ぶペデストリアンデッキのオープニングイベントが広島駅にて行われた。

トップス広島からはNTT西日本広島ソフトテニスクラブの堀晃大監督、船水雄太選手、丸中大明選手が参加し、トークショーなどでイベントを盛り上げた。渡り初め式典には、ハロウィンの仮装者や一般の方が約1000人集まり、ペデストリアンデッキを渡った。

11月5日(土)には東広島市中黒瀬小学校で「命の授業～トップアスリートから学ぶスポーツ教室」が行われた。

トップス広島からNTT西日本広島ソフトテニスクラブの堀監督、丸中・岩崎圭選手、中国電力陸上競技部の池淵智紀・中原大戦らが参加した。

当日は、体育館でバドミントンをしたり、グラウンドで、走り方を学びながらかけっこをしたりなど、中黒瀬小の子供達は選手と共に汗を流した。



ペデストリアンデッキでのトークショーの様子



中国電力の中原選手と共に走る子供達



JTサンダーズ V・プレミアリーグ 3連戦

11月6日(日)～11月13日(日)の間V・レギュラーラウンド1Legの3試合が行われ、JTサンダーズはFC東京・パナソニック・ジェイテクトと戦った。

11月6日(日)のFC東京戦は序盤から一進一退の攻防が続く、同点の場面でスパイクブロックを重ね、2点リードすると、それを口火にスパイカー陣が連続得点。勢いそのままに第1セットを先取。第2セットもなんなく連取すると、第3セットは序盤こそリードを許すも、連続得点をあげるなど、最後まで逆転を許さず、今シーズン初勝利を飾った。

11月12日(土)のパナソニック戦は出だしの連続得点で4-1と先手を取り、リードを保ったまま順調に得点を重ね、第1セットを先取。第2セット、立ち上がり連続6得点でリードを奪うが12-8の場面から連続5失点を許すと一気に形成逆転。セット終盤も流れを奪い返せず、2セット目を奪取され、1-1のタイに持ち込まれる。続く第3セット、第4セットも相手の勢いを止め切れず、逆転負けを喫してしまう。

11月13日(日)のジェイテクト戦は22-22まで一進一退の攻防が続くが、ドラジェン・ルブリッチ選手、箕本翔昂選手の連続攻撃で第1セットを先取。第2セット粘る相手に苦戦するが逆転を許さず、セット連取で勝利へ近づく。第3セット立ち上がりからリードを許す展開。しかし、ここから多彩な攻撃を繰り広げ、リードを保ったままゲームセット。接戦を制し、今シーズン2勝目を挙げた。



試合後インタビューを受ける安井勇誠選手



第8回アジア選手権 日本代表壮行会

11月1日(火)にホテルセンチュリー21にて第8回アジア選手権の壮行会が開催された。広島県内県外から約180名がNTTから日本代表に選ばれた水澤悠太・長江光一・船水雄太選手を激励した。ソフトテニスでは昨年、世界選手権にて男子団体は金メダルを獲得したものの、個人戦は全て韓国が金メダルを獲得するなど、苦汁をなめている。今年は千葉県での自国開催、日本チーム得意のサーフェス(人工芝)ということもあり、金メダル独占が期待される。日本代表主将の長江、ベテランの水澤はペアとして成熟期を迎え、船水はムードメーカーとしてシングルス、ダブルス共に勢い良く相手に向かっていく。

NTT勢の活躍が日本代表の金メダル獲得の鍵を握っている。多くの方から激励を頂き、選手の士気も高揚した。心身共に万全の状態で大大会を迎えてもらいたい。

中電陸上部 OB 選手による陸上教室

中国電力陸上競技部の創部当初を支えた、糸原康生 OB (H3～H10) と五十嵐範暁 OB (H3～H18) が、10月5日東広島市立竹仁小学校(糸原 OB)と、11月16日東広島市立入野小学校(五十嵐 OB)で陸上教室を行った。

講義と実技の2部構成で授業を行い、講義ではチームが強くなっていくときに、チームの中で何が起きていたのかを、それぞれの経験を基に紹介し、実技では楽しく身体を動かすことを目的に、ゲームやミニ駅伝を行った。糸原 OB は、勝負事になれば負けて「悔しい」と感じることもあると思うが、それは決して恥ずかしいことではなく、次の目標に向けての原動力であると伝え、常に目標を持つことの大切さを説いた。

OB 選手による指導は、競技を終えたことで自身の経験が整理されて、そこに競技引退後の社会経験が加わることで現役選手とは視点の異なる指導をできることが魅力である。



糸原 OB による竹仁小学校での講義の様子



白熱の日本リーグ 南都銀行に惜敗し 4 位ゴール！

CCWRS は「高円宮杯 2016 女子ホッケー日本リーグ」のリーグ戦を 8 勝 1 分けて 1 位通過した後、順位決定戦初戦では同 8 位の立命館ホリーズに勝利し、準決勝に駒をすすめた。

準決勝(10月22日)の対戦相手は、9月に行われたリーグ戦で勝利を収めているグラクソ・スミスクライン Orange United (以下、グラクソ)。試合は第 1Q 開始直後からグラクソの攻撃陣に攻め込まれ、先取点を奪われた。その後も CCWRS は攻撃のリズムがつかめないうまま、第 2Q にも追加点を奪われ 0-2 と劣勢が続く。第 2Q、金藤選手のヒットシュートで待望の 1 点を返すも前半戦は 1-2 の 1 点ビハインドで折り返す。

追いかける立場でスタートした後半戦は、第 3Q に攻撃のリズムが一気に加速して、藤井美沙選手・小野真由美選手の連続ゴールで逆転に成功。しかし、粘り強いグラクソの攻撃陣に第 4Q に追いつかれ、勝負は S0 (シュートアウト) 戦での決着となった。緊張感が漂う中、CCWRS は 5 選手中 4 選手が相手 GK にゴールを阻まれ 1-2 で惜敗し、南都銀 SHOOTING STARS との 3 位決定戦に挑むこととなった。

翌日(10月23日)に行われた南都銀行 SHOOTING STARS との 3 位決定戦は、第 1Q から勢いよく相手ゴールへ攻め込む CCWRS ではあったが、ゴール前での決定力を欠きチャンスをもにすることができない。逆に第 2Q には自陣ゴール前での一瞬の隙を突かれ痛恨の先制点を奪われた。第 3Q 以降、CCWRS は更なる果敢な攻めによりチャンスは作るものの、相手 GK の好セーブにより最後まで得点を奪うことができず、残念ながら 0-1 で敗戦。その結果、「高円宮杯 2016 女子ホッケー日本リーグ」の最終順位は、4 位という悔しい結果に終わった。

この悔しさは、12 月に開催される「第 77 回全日本女子ホッケー選手権大会」で晴らし、今シーズン最後の大会を優秀の美で終えることを、選手一人ひとりが心に誓った。



メイプルレッズ 西区民まつりに参加

11月6日(日)広島サンプラザ・西部埋立第五公園で西区民まつりが開催され、西区にゆかりのある広島メイプルレッズやアンジュヴィオレ広島や広島ドラゴンフライズなどが参加した。広島メイプルレッズからは、角屋里帆選手・眞継麻礼選手・門谷舞選手が参加した。テニスコートでハンドボール 7m スローチャレンジを行い、参加した子供たちは笑顔に溢れていて、楽しく体験していた様子だった。

来年一月からはレギュラーシーズンが再開される。12 年ぶりの優勝を目指してほしい。



西区民まつりに参加した選手達



サンフレ 今シーズン最後のタイトルを得るために

サンフレッチェ広島は11月12日(土)に天皇杯準々決勝進出をかけてサガン鳥栖と戦った。今シーズンはJリーグやルヴァンカップでタイトルが取れなかったので、天皇杯では優勝を期待したい。

試合はアウェーでの試合で厳しい試合になることが予想されたが、今シーズンのJリーグ得点王に輝いたFWピーター・ウタカ選手などが得点を決め、3-0で勝利をした。また、この試合には今シーズンで現役引退を発表したMF森崎浩司選手も出場した。森崎浩司選手はサンフレッチェ広島の下部組織から加入し兄のMF森崎和幸選手とともに17年間サンフレッチェ広島一筋で活躍した。

引退するのはとても寂しいが、天皇杯を優勝して有終の美が飾れるように最後まで応援したい。



広ガス 日本リーグ壮行会開催！

11月18日(金)から20日(日)に愛媛県砥部町で開催されるバドミントン日本リーグに向けての壮行会が広島ガス株式会社本社ビルにて行われた。

桜井みどり主将は、「3日間で7試合という短期決戦のため、体力面・精神面ともにとても過酷な大会になりますが、私たちはこの試合に向けてしっかりと準備をしてきました。その練習の成果を試合に出すことができれば、優勝できると私たちは信じています。そしてどんな状況でも最後まで諦めずにチームを信じて、みんなを信じて頑張りたいと思います。」と決意を述べた。

S/J LEAGUE への昇格という目標に向かって戦う広島ガスバドミントン部の勇姿に期待した



「S/J LEAGUE への昇格」を目標に掲げた選手達

各チームの1推し選手を紹介します。

☆選手紹介コーナー☆



サンフレッチェ広島
茶島 雄介選手

生年月日 1991年7月20日
年齢 25歳
血液型 O型
出身地 広島県

↓担当者からのコメント

小柄ながら、高い技術にミックスされた俊敏なプレーは秀逸。幼い頃からサンフレッチェの応援に駆けつけ、「いつかサンフレッチェの一員として、スタジアムでゴールを決めたい」という夢を抱き、実現させた。地元出身選手として、次は茶島選手が広島の子供たちに夢と希望を与えられるよう、今後も活躍してくれることを願う。



湧永製薬 5年ぶりに大崎電気に勝利

11月5日(土) マエダハウジング東区スポーツセンターで、日本リーグ広島大会の湧永製薬対大崎電気の試合が行われ、湧永製薬は、今シーズン首位の大崎電気に快勝した。前半は、湧永製薬の成田の得点で先制した。そのまま試合は湧永製薬のペースであったが、前半終盤には2点差まで迫られ、14-12で前半を折り返した。だが後半は、湧永製薬が終始主導権を握った。後半18分からは5得点連続を決めるなど、持ち前のチームプレーを発揮し、33-21で湧永製薬が大崎電気に5年ぶりに勝利した。



ロゴマークの意味

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。

編集協力 広島経済大学 興動館
スポーツによる地域活性化プロジェクト